

いずみさの昔と今 第231回

「泉佐野のお宝大集合①」唐金梅所への手紙①

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、平成22年度以降に収集した資料を紹介する企画展「泉佐野のお宝大集合」新収蔵品展を4月18日(土)～5月31日(日)に開催します。今回は、その展示資料の中から「室鳩巢書簡(唐金梅所宛)」を紹介します。

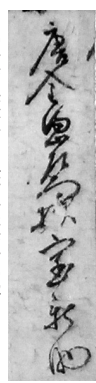
この書簡(手紙)は、室鳩巢(むろきゅうそう・*1)が唐金梅所(*2)に宛てたもので、梅所が鳩巢の家を訪れたとき、きちんと応対できなかったことへの謝罪の手紙です。

梅所は料理を持参して鳩巢の家を訪ねました。翌日に再度訪ねたところ、鳩巢は急用がでさ途中で外出することになりました。鳩巢はそのお詫びとして、国元から氷砂糖を取り寄せ、梅所に送ったという内容です。

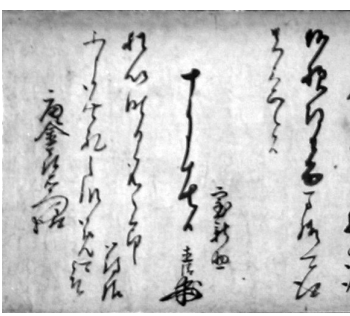
書簡には日付が10月17日とありますが、年号は記されていません。書状の最後の宛名部分で、鳩巢は梅所を「唐金喜右衛門」と記していますが、梅所が唐金家を継いだのは1690年代で、「総左衛門(惣左衛門)」と改称するのは享保15(1730)年

頃であることから、その期間に書簡が記されたと考えられます。ところが、この書簡は掛軸として表装されており、書状冒頭(上書)には「唐金惣左衛門様室新輔」と記されています。先述したように、梅所が「惣左衛門」と称するのは享保15年以降であることから、辻褄が合いません。これは掛軸をよく調べると、上書と本紙は紙の質などが異なっていることから、書簡を掛軸として表装する際に、1730年以降の別の書状の上書を切り継いだのでは、と考えられています。

唐金梅所宛の書簡(唐金梅所宛)の冒頭部分(上書)



▲室鳩巢書簡(唐金梅所宛)の後半部分



▲室鳩巢書簡(唐金梅所宛)の後半部分

(*1) 室鳩巢(1658～1734年)：江戸時代中期の儒学者。江戸に生まれ、寛文12(1672)年より加賀藩に仕え、その年の秋からは藩主の命により、京都の木下順庵のもとで学問を学びます。同門には新井白石や雨森芳洲がいました。正徳元(1711)年2月から白石の推挙により幕府に仕え、六代將軍徳川家宣、七代將軍家継、八代將軍吉宗に仕えました。

(*2) 唐金梅所(1675～1738年)：佐野の豪商(食野(めしの)家の分家に生まれましたが、後に同じ一族である豪商の唐金家の分家の養子となった人物で、書画や詩文に優れ、近世の佐野を代表する文化人として知られています。白石、芳洲をはじめ各地の文人と交流し、朝鮮國王が日本に派遣した朝鮮通信使とも交流しました。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140
Fax469-7141
休館日 月曜日
(祝日の場合は翌日)
開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料



公的機関を名乗る怪しい電話が急増しています

【解説】

最近、公的機関を名乗り、個人情報削除を持ちかけたり、年金を停止するなど脅したりして、個人情報を聞き出すとする電話が増えています。このような電話は、最終的には何らかの契約をさせて、お金をだまし取る詐欺の手口です。一度お金を払ってしまうと取り戻すことは極めて困難なので、絶対に支払ってはいけません。

【事例】
●警察を名乗り、「逮捕した業者の名簿にあなたの個人情報記載されているから削除してあげます」といった電話がかかってきた。

●市役所の年金担当者を名乗り、「国の調査なので答えなければ、来月から年金が減額される」と言われ、生年月日、家族構成、年金受給額などを教えてしまった。

●国民生活センターの関係者を名乗り、「未公開株の被害に遭っていないか、被害を調査している」と言われた。また「この会社の未公開株なら安心できます」と特定の業者の電話番号を案内され、すぐに連絡するよう指示された。

公的機関がいきなり個人宅に電話をして、生年月日や家族構成を聞いたり、年金の支給停止を告げたりすることはありません。電話がかかってきても慌てず、過去の契約被害や個人情報伝えたり、相手の話に乗ったりせず、すぐに電話を切り、消費生活センターに相談してください。

また、強引で恐怖を覚えた場合は、お近くの警察にも通報してください。

困ったときは消費生活センターに相談してください。

